

# あいさつ運動の好事例

## 和気町立佐伯小学校

(児童数 88名 教職員数 16名)

### 「語先後礼」のあいさつ 世界一の あいさつへ GOさえき ～ いつでも どこでも だれにでも ～

#### アピールポイント

登下校時や授業はじめと終わりのあいさつなどはよくできるが、それ以外の場面ではあいさつが全くできていない様子も見られたりするという実態であった。そこで、「語先後礼」のあいさつが「いつでも・どこでも・だれにでも」できるようになることをめざし、各学級、委員会、教職員が一致団結して取り組みを行ってきた。最近では、保護者や地域の方からほめていただくことが多くなった。

#### 実際の様子



登校の様子



玄関の掲示版

#### 取組の概要

##### ■活動内容

- 運営委員会が中心となって「あいさつ運動」を行う。
- 毎月「あいさつ週間」を設け、担当学年が工夫を凝らした「あいさつ運動」を展開する。  
(例) あいさつバトン  
あいさつをしながらバトンを手渡し、受け取った人は他の学年の人にあいさつをしながらバトンを渡していく。
- スローガン「世界一の あいさつへ GOさえき」を代表委員会でも決定し、見やすい場所に横断幕(約16m)を掲示する。
- 素晴らしいあいさつができた人を毎週金曜日に運営委員が校内放送で紹介する。
- 特に素晴らしいあいさつができた児童や登校班や学級等を全校朝礼で校長が表彰する。
- 学校通信や学級通信、学校行事、PTA行事などであいさつ運動の様子を保護者や地域に発信する。
- 「めざせ 日本一のあいさつ」の旗を企業に配布



運営委員会が作成した  
スローガン



あいさつに関する表彰式の様子



##### ■成果・効果

- ・心から気持ちを伝える「語先後礼」に取り組んだ結果、ほとんどの児童が立ち止まり、相手の顔を見て笑顔で元気な「語先後礼」のあいさつができるようになってきた。
- ・校内放送で紹介されたり、表彰されたりした児童や学級は、その後継続して素晴らしいあいさつができるようになってきている。
- ・来校されたお客様や地域の方から「佐伯小の子どもたちはあいさつがよくできる。」とほめていただくことが多くなった。

※「継続は力なり」。今後も「語先後礼」の「世界一のあいさつ」をめざして頑張っていきます。